

令和3年度 青少年育成地域懇話会

当協会では市町村市民会議等の活動を支援し、地域全体で青少年育成への理解を深めるため、青少年育成に関わる有識者と地域の活動関係者等による懇話会を開催しています。令和3年度は、10月に共和町で開催しました。

【共和町】 テーマ「地域の新たなリーダーづくり」

日時 令和3年10月21日(木) 場所 共和町生涯学習センター
共催 共和町青少年育成協会 後援 共和町教育委員会

●講話 「若者(青少年)が自ら考えて行動する地域づくり」

講師 NPO法人ezo rock (エゾロック) 代表理事 草野竹史氏

●意見交流 テーマ 「共和町の将来を見つめて」～青少年がいきいきと活動するためには～

進行役 共和町教育委員会生涯学習課社会教育指導員 玉熊礼二氏

助言者 NPO法人ezo rock (エゾロック) 代表理事 草野竹史氏

// 北海道教育庁後志教育局社会教育指導班主査 田中尚史氏

●概要

講話では、草野氏から、石狩市で行われた野外音楽フェスティバルのゴミ問題を何とかしたい、との思いがきっかけでezo rock活動が始まったこと、その結果、若者を巻き込み(集める力)ながら、チームで課題に取り組み(コーディネートする力)、各地で活躍する担い手を育てる(人材育成)ことに繋がり、課題や問題があれば皆で話し合い、解決してきたという思いや、経緯が話されました。

また、今の若者たちについて、①未来に対して悲観的であり、不安を持っている若者が多い、②社会問題(SDGs)などへの関心が高い、③大人(特に親)から怒られたことがないなど感じており、こうした若者たちと向き合うため、支える世代が持っている力や資源を使って、まずは格好良い背中が見せられたら良いとの提言がありました。

意見交流では、「どうしたら子供たちが様々な活動に積極的に参加するか」、「子供たちに共和町への関心を持たせられるか」、「主体性を持った子どもに育てられるか」、「そのためにはどのような活動が必要か」などの参加者からの声に、助言者が応えました。

草野氏からは、「指導者不足が言われているが、共和町に関わりのある“大学生などの若者”に参加してもらうことで、そうしたことへの対応にも繋がるのではないかと。若者にとっても『教えられる』から、『伝える』立場になることで得るものがある。」との助言が。後志教育局の田中主査からは、「自分が誰かの役に立つという経験を持たせたい。例えば、子供たちのキャンプで小グループにして必ず役割を持つ。その役割が果たせたとき、周りから認めってもらう機会をつくるのが大切」といった助言がありました。



草野氏の講話の様子



意見交流の様子

おわりに草野氏から、「私はこの2~3年、40歳を迎えるにあたり、自分の役割がなんなのか悩んでいた。考えた末、自分より上の世代と下の世代をつなげることではないか、いろいろな世代の話を聴いてそれをいろいろな世代に届けること。私のような者がいるということを知っていただければ嬉しい」、田中主査から「後志管内では、社会教育主事たちが地域の子供は地域で育てるを共通認識とし、今年からジュニアリーダーワークショップを始めた。共和町の中学生が一から事業を企画して地域に貢献しようとしている。是非そうした事業に皆さんも参加して、応援していただきたい」と述べ、最後に司会者の玉熊社会教育指導員が「お二人からいただいたメッセージをこれからの取組に活かしていきたい」と、締めくくり閉会しました。